

平成25年度第1回 岐阜県重症心身障がい児者支援連携会議 議事概要

日 時 平成25年10月8日(火) 14:55~16:50

場 所 岐阜県シンクタンク庁舎5-1会議室

出席者

構成員

(敬称略)

所属・職名	氏名
医療法人社団 英集会 福富医院 院長	福富 悌
岐阜県医師会 常務理事	矢嶋 茂裕
岐阜市福祉部 福祉事務所 障がい福祉課長	林 秀行
社会福祉法人 あゆみの家 施設長	田口 道治
公立大学法人 岐阜県立看護大学 看護研究センター 教授	田辺 満子
国立大学法人岐阜大学医学部 小児病態学 臨床准教授	松井 永子
地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 新生児内科部長	河野 芳功
地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 副院長兼看護部長	高木久美子
独立行政法人国立病院機構長良医療センター 療育指導室長	愛田 弘美
岐阜県立希望が丘学園 主任医長	内木 洋子
岐阜県立希望が丘学園 看護部長	神谷知恵美
岐阜県立希望が丘学園 事務局長	吉田 茂喜
岐阜県健康福祉部長	川出 達恭
岐阜県健康福祉部次長	久保田芳則
岐阜県健康福祉部医療整備課 看護企画監	岡田 昌子
岐阜県健康福祉部障害福祉課長	土井 充行
岐阜県健康福祉部障害福祉課基盤整備企画監	山田 恭

陪席者

所属・職名	氏名
岐阜県立希望が丘学園 上席看護師長	水畑真由美
保健医療課母子保健係長	富田 孝子
障害福祉課重症心身・発達障がい支援係長	山脇 裕之
障害福祉課重症心身・発達障がい支援係主任	高木 望都

事務局

所属・職名	氏名
地域医療推進課総合療育推進室長	都竹 淳也
地域医療推進課総合療育推進室総合療育推進係長	山田 育康
地域医療推進課総合療育推進室総合療育推進係主査	清水三智夫
地域医療推進課総合療育推進室総合療育推進係主査	藤川 祐樹

## 開 会

開会あいさつ（健康福祉部長）

## 議 事

### 1 重症心身障がい児の入所に関する機能分担・連携体制について

#### ○資料説明

資料1 入所を要する重症心身障がい児数の見通し及び入所調整に関する考え方（試案）

#### ○質疑・意見交換

- ・施設を充実させて入所機能を強化するよりは、在宅支援を充実させた方が18歳以降の県の負担が減るのではないかと。  
→小児だけでなく、18歳以上のケアの部分を、今後、県の施策としてやっていく必要があると考えている。在宅支援と施設整備を車の両輪としてやっていく。
- ・この先、入所施設を増やしていく流れより在宅への流れをメインにとらえるなら、家族の負担を減らせる短期入所をどの程度充実させるかが重要である。県総合医療センターや希望が丘学園は、短期入所を受け入れるのか。  
→県総合医療センター新棟の運営方針は現在策定中であるが、短期入所の受け入れも含めた在宅支援型の形態とすることについても検討されている。

### 2 岐阜県立希望が丘学園における短期入所のあり方について

#### ○資料説明

資料2 希望が丘学園における短期入所のあり方について

#### ○質疑・意見交換

- ・現在、希望が丘学園で短期入所の申し込みを断っている状況は。  
→お断りしている件数は、6月0件、7月15件、8月19件であった。特に週末、金曜日から日曜日にお断りすることが多い。
- ・超重症児たちの受け入れについても広い視野で検討をするべきだと思う。長良医療センターのスタッフが希望が丘学園に行って研修講師になるなどして、学園で超重症児の受け入れができるように検討するべきではないかと。

### 3 重症心身障がい児者支援施策について

#### ○資料説明

資料3 小児在宅医療の推進について

資料4 重症心身障がい児者の短期入所受け入れ拡大に向けた岐阜県の取り組みについて

資料5 障がい児者訪問看護活用モデル事業の推進等について

#### ○質疑・意見交換

- ・重心児はたった2～3時間病院に預けるだけでも、出かける前と後の準備にそれぞれ1～2時間ほどかかってしまう。訪問看護による支援など、在宅でのレスパイトのあり方を検討してほしい。
- ・短期入所事業所の拡大について、医療と福祉の制度が違いすぎて、新たに有床診療所での空床利用型を始めようと思っても現実には取り組むことができないと思う。短期入所の受け入れを拡大するための基盤、手引きができていない。
- ・病院から重心施設に入所される場合は、退院カンファレンス時に療育手帳が必要なので取得してくださいという説明をするが、在宅移行する方が通常の医療機関にかかる場合には療育手帳はいらないので、療育手帳の説明はしない。そういう方がいざ福祉のサービスを受けようとするとう療育手帳がないという話になってしまう。コーディネーターとなる人が療育手帳についてもまとめて説明していく必要がある。
- ・小児在宅医療研究会などの場で議論して、在宅への移行に向けた手順書を作るなどして、在宅に興味がある方に配布するなどしていくと問題をなくしていけないのではないか。

#### 閉 会

事務局より、次回会議は2月頃に開催予定である旨報告し、閉会。

以 上